

# 73年前の 広島のはなし

—あの日、小学生だった八幡照子さんによる被爆証言会—

7月7日 **土** 13:30 (13:00 開場)

こくふ交流センター研修室

(高山市国府町広瀬町 880-1)

参加**無料**

広島出身の  
シンガソングライター  
せとまゆさんによる  
ミニミニライブも  
予定しています♪

お問合せ・ご予約は

国府町まちづくり協議会 TEL/FAX72-4480 へ



終戦から今年で 73 年。当時の記憶がある方はご高齢になり、戦時中のお話を聞ける機会に限られてきました。しかも、高山から離れた**広島・長崎**のこととなれば、なおさらです。そんなときだからこそ、原爆が投下されたあの広島を体験した方から、直接お話を聞く場をつくりたい。

ゲストにお招きする**八幡照子**さんは、広島に暮らす普通のおばあちゃんです。当時 8 歳だった彼女も、**80 歳**を超えました。彼女の記憶を共有してもらうことで、未来のカギが見つかるかもしれません。会の後半では、ご来場いただいたみなさんと自由にお話いただく時間も予定しています。みなさんのご来場を心よりお待ちしております。

《プロフィール》八幡 照子 (やはた てるこ)



広島被爆 1937. 7. 25 生まれ 被爆当時 8 歳

広島県安芸郡在住。爆心地より 2.5 km 地点にある自宅の裏庭にて被爆。5~6 m 吹き飛ばされ額に出来た傷跡は今も残っている。黒い雨に濡れつつ、全身に大火傷を覆った人びとの行列の中、避難。傷跡の治療の為に通った救護所の小学校の校庭が火葬場になっていたことに衝撃を受ける。戦後の苦しい生活を経て、結婚、子育て、仕事と、証言する機会は少なかったが、5 年前外務省から「非核特使」の委嘱を受け、世界各地で証言した。それを機に、現在は活発な活動を展開している。

主催：国府町まちづくり協議会 後援：高山市・国際 NGO ピースボート